



企画・取材・発行
射水商工会議所 魅力発信プロジェクト
(事務局) 射水商工会議所
〒934-0011 射水市本町 2-10-35
TEL: 0766-84-5110

発行日
2020年3月25日

新湊 さんぽ

海 

湊町の人々が信じる
目に見えない力を巡る。

引用・参考文献

- 「新湊市史」新湊市史編さん委員会
- 「いみずの神社・寺院」射水地区広域事務組合
- 「新湊の年中行事」新湊市教育委員会
- 「新湊のむかしばなし」新湊市教育委員会
- 「新湊のことば」新湊市教育委員会
- 「古事記」倉野憲司 校注/岩波文庫
- 「日本書紀(上)全現代語訳」宇治谷孟/講談社学術文庫
- 「日本の神様解剖図鑑」平藤喜久子/株式会社エクスナレッジ
- 「神社の解剖図鑑」米澤真紀/株式会社エクスナレッジ
- 「神社の解剖図鑑2」本間美加子 著、平藤喜久子 監修/株式会社エクスナレッジ
- 「仏像の見方ハンドブック」石井亜矢子/池田書店

協力

射水市、射水市教育委員会、取材にご協力いただいたみなさん

制作

株式会社 ワールドリー・デザイン

まっ
日々祀り、
とさどさ祭り。



神も仏も幸運も、海からやってくる。

新湊のボンボコ祭(海上渡御の様子) 内川河口に位置し、恵比須様を祀る西宮神社のお祭り。毎年恒例ではなく、不漁や海で事故が起きた年の翌年に、海上で行われる特別な儀式です。西宮神社の恵比須様の像を神輿船にお移しし、たくさんの大漁旗で飾った20隻近くの漁船とともに新湊漁港から出航します。海上の3か所を巡り、船上で「ボンボコ舞」が奉納されます。(写真提供: 射水市教育委員会)

おそ うやま まつ いの 畏れ、敬い、祀り、祈る。

富山県射水市・新湊地区。今でも多くの寺社や地藏堂などが密集し、古くから続く祭りや習慣が数多く残っています。1,300年以上前から、海に臨んで暮らしてきた人々には、ハレの日はもちろん日々の生活の中においても、目に見えない存在への意識が標準装備されています。それは、自分たちの力ではどうすることもできない力への畏敬の念。それは、ありあまるほどの恵みを与えてくれる圧倒的な力への感謝。それは、家族や仲間たちの無事と健康を切に願う気持ち。それは、誰に言うこともなく誓いを立てる決意…。手を合わせるのも縁起をかつぐのもホンの一瞬です。自分の心の中で済んでしまうことも少なくないでしょう。古くから受け継がれ、それが何万・何億と重なっているので、地元では当たり前で意識すらしない無色透明なものに見えたとしても、よそから見れば驚くほど強い色を感じるはず。さあ、あなたも、まちに漂う目に見えない力を、実際の場所を巡りながら感じてみませんか。☺

＼歴史ア的／

-開運への5つのステップ-

① まずは、知る

ご利益度 ★★★★★

このエリアには、普段から多くの神様や仏様が祀られています。また、お祭りなど特別な日にお迎える存在もいらっしゃいます。それぞれに成り立ちや役割が違い、得られるご加護やご利益も変わります。ざっくりと「神仏」とくっつけてはもったいない！まずは、様々な神仏と私たちのつながりを知りましょう。そこから新たな世界と運が開けるかも！

② 次に、訪れる

ご利益度 ★★★★★

ぜひ現地まで足を運んでみましょう。ご本尊やご神体は特別な日だけ公開される場合もあるため、祭礼や一般公開の日に合わせて訪れるのがおすすめ。また、普段から、お堂の外からの参拝や境内散策が可能なお堂がほとんど。訪れるだけでも、神仏のご威光にふれて、少し運が開けるかもしれません。

③ そして、拝む

ご利益度 ★★★★★

①山門(寺院)・鳥居(神社)の前で一礼して入る→②手水舎で手と口を清める(ない場合は省略)→③お線香やお供え、お賽銭をあげる(ない場合は省略)→④合掌して一礼し、参拝(寺院)・二礼二拍手一礼し、参拝(神社)。この流れが基本ですが、寺社によって独自の作法がある場合はそれに従いましょう。

④ 巡る

ご利益度 ★★★★★

気になる神仏を巡ってみましょう。参拝後にいただく御朱印を集めるのもおすすめ。住職や神職が常時いない寺社もありますので、お気をつけください。

⑤ お世話する、参加する

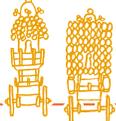
ご利益度 ★★★★★

神仏を近く感じるには、日々のお世話や奉仕活動、祭礼など特別な日の準備や運営の担い手になること。これらの活動を通じ、神仏から有形無形のお裾分けが与えられ、ダイレクトにご利益を感じられることでしょう。

★この冊子では、一般的な神仏や精霊のイメージと主なご利益3つを選んで紹介しています。お姿や力には、多くの解釈がありますのでご了承ください。

ほうじょうづはちまんぐう
しゅうぎれいたいざい
**放生津八幡宮
秋季例大祭**

Autumn Festival of
Hojozu Hachimangu
Shrine



10月1日 8:30~
みこし とぎよ ひきやま くぶ
神輿渡御、曳山供奉 神輿が町内を練りまわ
る準大祭。神輿の渡御にお
供するかたちで、各町の13本の曳山が巡行する神事です。

毎年9月30日~10月3日に渡って行われる秋祭り。中でも10月1日に開催される曳山祭りは勇壮華麗で賑やかなお祭りとして有名ですが、あくまでも一部(準大祭)です。本祭(大祭)は10月2日の築山神事と放生会。海から神様をお迎えし、先祖の霊とともに“祀る”のが築山です。同日、生類供養の祭りとして、地名「放生津」の由来と言われる放生会も行われます。10月3日、例大祭が無事終わったことを報告・感謝する斎齋祭で幕を閉じます。



海からやってくる神様を祀る
A Ceremony to adorn the gods coming from the sea
築山神事
つぎ やま しん じ
The Ceremony to Create
“Tsukiyama” and Decorate Dolls
*Tsukiyama
= a stage that means an artificial mountain
10月2日 5:00~日没

曳山祭りの翌日に行われる放生津八幡宮の秋季例大祭の本祭。築山と呼ばれる仮設の舞台を作り、神々の姿の人形5体(主神=姥神、四天王=持国天・増長天・広目天・多聞天)と、客人(飾人形)として歴史上の物語に因んだ人形2~5体を祀る行事です。仏教で世界の中心にあるという「須弥山」を表した築山に、主神として先祖の霊を神格化した姥神と、仏教の四天王を祀るという、神仏習合の古い祈りのかたちを今に伝える珍しい伝統行事です。人形は10月2日早朝から飾り始め、その日の日没前までに片付けてしまいます。客人は毎年変わります。氏子総代らが話し合っってその年の題材を決め、数ヶ月かけて準備をします。曳山祭りの方が有名ですが、この築山が、動く曳山に発展したとも考えられており、原初の曳山の姿や、古来の地域の人々の信仰を今に伝える、非常に貴重な行事なのです。



1 完成した築山の背景から朝日が昇ってくる。 (10月2日 6:30 ごろ/提供:放生津八幡宮) 2 人形のセッティングは日が昇る前。集合はなんと3:30! 前日の曳山祭りの後、各町の曳山の片付けが終わる頃です。まだ暗いため照明をつけて作業をします。(10月2日 5:00 ごろ/提供:放生津八幡宮) 3 例大祭(本祭)に先立ち築山の御祓いが行われます。(10月2日 7:00 ごろ/提供:放生津八幡宮)



9月30日 17:00~
たまわかえしき
魂迎式 海から招いた神々の
霊を舟形の神輿
に招き、築山近くの老松に運びます。
御霊は2日早朝まで松に宿ります。



10月1日 18:00~
ひきやままつり
曳山祭 昼の花山が、夜は
提灯山に。さらに
勇壮華麗な雰囲気になり、夜中ま
で町内を練りまわります。



10月2日 11:40頃~
ほうじょう え
放生会 祝詞や舞、玉串が
捧げられた後に、
鳥は本殿で放たれ、魚は内川まで
移動して、放たれます。



我が子よ!
父は仲哀天皇
(足仲彦命)、
母は神功皇后。

ほんだわけのみこと おうじんてんのう
誉田別命(応神天皇)
本社/宇佐神宮(大分県)
産業 勝利 厄除
繁栄 祈願 開運



地域の歴史・文化の中核を担う総社

ほうじょうづ はちまんぐう

放生津八幡宮



越中の国司として赴任した大伴家持が、746年に作らせたという神社。祭神は、家持が宇佐八幡宮よりお招きした応神天皇(誉田別命)。母である神功皇后が新羅を攻める際、胎内から応援して母を勝利させたこととされ、誕生前からすでに力を発揮していた武神です。配神として、応神天皇の皇子である仁徳天皇も祀られています(1913年、江柱地区の若宮八幡宮から合祀)。広い境内には本殿・拝殿以外に、來名戸社、火之宮社、祖霊社、魚取社などの社や、秋の例大祭で神々の霊の依り代となる御神木などが点在しています。



く な としや
來名戸社

疫病除けの神様、八
ちまたひめのかみ やちまたひのかみ
衢比売神・八衢比古神
を祀っています。道
の境目にあつて邪靈
の侵入を防ぎます。



ひ の みやしや
火之宮社

火の神様、迦具土命
かぐつちのみこと
を祀っています。防
火のほか、火に関係
のある分野を守護す
る神様です。



な とりしや
魚取社

漁師を守護し豊漁を
司る神様、事代主神
(恵比須様)が祀られ
ています。昔は境内に
ありました。



ご しんぼく
御神木

秋季例大祭でも重要
な役割を果たす松の
木。高神様(秋葉様や
天狗と同一視)が宿る
と言われています。



そ れいしや
祖霊社

放生津八幡宮を作ら
せた大伴家持を祀っ
ています。

おあとものかみもち
大伴家持
ご利益
学業 技芸
成就 上達

図解でみる築山

御祖神 みたま
9月30日の夕方、海から招いた先祖の霊を舟形の神輿で築山まで運んで祀ります。御神木の松を背に築山の舞台を作り、神々を模した人形を飾ります。

四天王 してんのう
須弥山にいとされる、仏教世界の東西南北を守る神様。持国天、多聞天、増長天、広目天の4神。

守護神 じこくてん
持国天 (仏教)
東の守護神。国を持つ=治める力を与えます。
● 国家安泰 ● 鎮護国家 ● 家内安全

守護神 たもんてん
多聞天 (仏教)
北の守護神。一体の場合は毘沙門天と呼ばれます。
● 財宝富貴 ● 武運長久 ● 高売繁盛

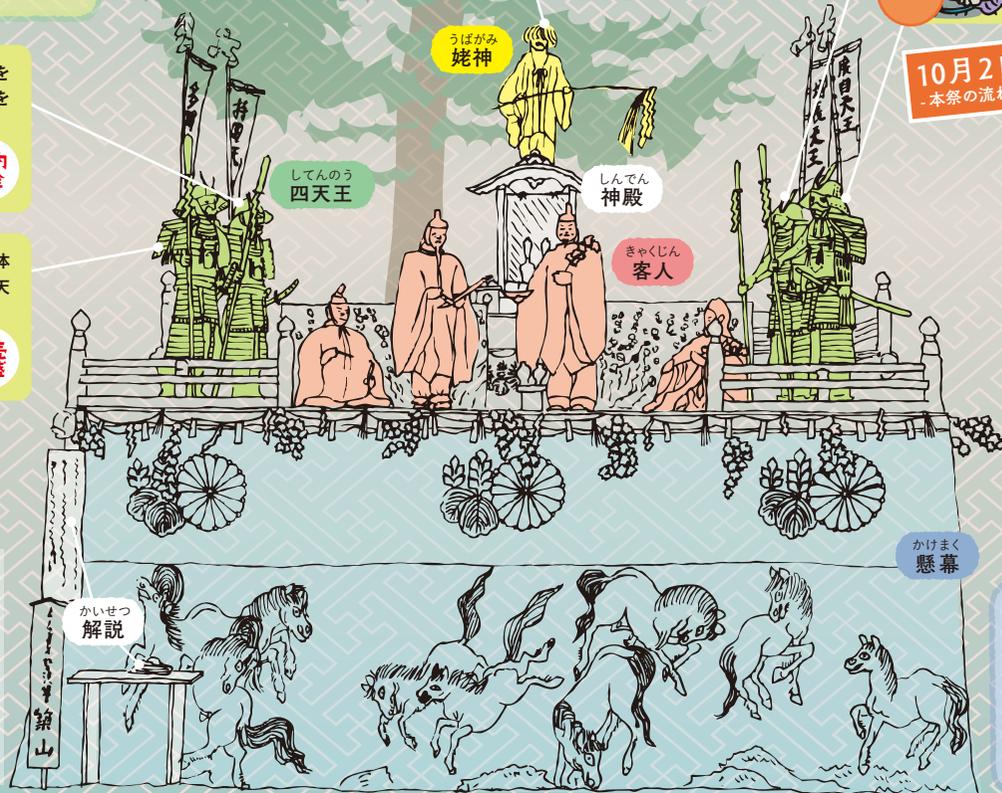
客人 きやくじん
(まろうど)
姥神と四天王とともに祀られる人形。歴史上の人物や物語を題材に、毎年趣向を凝らし飾られる。

令和元年的客人は、新元号「令和」の出典となった万葉集の一節が詠まれた場面が選ばれました。大伴旅人が、正月に仲間を官舎に招き、梅を愛でながら歌会の宴を楽しんでいる様子を表現しています。

主神 うばがみ
姥神 (民間伝承)
築山の主神。天空から舞い降りたように立ち、御幣つきの竹竿を持っています。
● 豊漁祈願 ● 身体壮健 ● 高売繁盛 ● 安産 ● 子孫繁栄

守護神 ぞうちうてん
増長天 (仏教)
南の守護神。恵みを増大させる力を持っています。
● 五穀豊稔 ● 鎮護国家 ● 厄災消除

守護神 こうもくてん
広目天 (仏教)
西の守護神。命あるものを千里眼で見守ります。
● 無病息災 ● 知恵授かり ● 国家安泰



10月2日
- 本祭の流れ -

3:30	境内清掃開始
5:00	人形配置開始
6:30	築山の畷い
7:00	朝食後、大祭準備
7:30	総代集合(紋付袴着付)
10:00	例大祭(拜殿にて) 神楽、舞の奉納
11:00	放生会(拜殿にて) 祝詞・舞の後、鳥を放つ
11:50	内川へ移動 祝詞の後、魚を放つ
13:00	学芸員による築山解説
15:30	築山片付け開始

天候により片付け開始時間は多少変動します。

かけまく 懸幕
放生津八幡宮の社紋と、波の上で駿馬が跳ねる図柄があらわれています。現在の幕は昭和24年に新湊町婦人会から奉納されたもの。

古い写真でみる築山



姥神の持つ竹竿の位置が、今まさに何かを釣り上げたかのよう。(大正5年/放生津八幡宮大祭絵葉書/提供:射水市教育委員会)



頭部の部品に面をつけて表現する客人の顔。客人の数が増えると面なしで飾られることも。(昭和中期/提供:射水市教育委員会)



上の写真と比較すると、配置違いで、顔・着物が同じ人形が確認できます。(昭和30年代/新湊市勢要覧/提供:射水市教育委員会)



この日はここが世界の中心!
しんみせん
舞台 = 須弥山
仏教で世界の中心にあるといわれる山を、神社の境内に作るという、珍しい神仏習合のお祭り。

姥神のお面には秘密が!
神々の世界を凝縮
姥神のお面には「猿田彦」「莺上」と墨書が。神々の集う幽玄の世界を象徴しているのです。

先祖の霊を迷わせないために
たった1日だけ飾る
招いた神々や霊たちが帰れなくなってしまわないよう、日没後には急いで片付けをします。

題材決定から人形制作まで
半年がかりの準備
資料をもとに協議を重ね、時代考証や衣装調査を行いながら、人形制作を進めます。

衣装も道具も本物を!
リアル感にこだわる
衣装や道具、お面など、できる限りそのストーリーや時代背景に合う本物を探します。

文化人と武士を交互に飾る
文・武のバランス
客人は、文化関係者の翌年は武士にするなど、バランスにも配慮して、題材を決めています。

築山の準備

資料提供：放生津八幡宮
写真提供：射水市教育委員会

6月

地域史調査

今年の築山に飾る客人のテーマを決めるため、郷土史や資料を参考に、射水市新湊博物館にも相談しながら複数の案を作成します。

7月上旬

客人選定

宮司と奉仕会(次ページ参照)のみなさんが客人を決定。前年が文化関係者なら翌年は武士にするなどメリハリを意識しています。



7月中旬～9月 客人制作

竹を用いて骨格を作り、大まかに体格を作り、そこに衣装を着せます。人形の衣装は、本物を追求。専門家のアドバイスを受けながら準備します。

例大祭数日前

御舟代準備

魂迎式で海からの神々を招く舟形の神輿「御舟代」の準備。新しい晒布と御幣を巻きます。

9月中旬

築山台組立



8月下旬～9月

大しめ縄作り

5月中旬に調達した藁すぐりをし、9月23日の付け替えにむけて徐々に大しめ縄を編んでいきます。ほかにも様々な種類のしめ縄を並行して準備するそうです。

放生津八幡宮の1年

このほか、1日祭(毎月1日)・月次祭(毎月15日)が行われ、年間て大小50の祭りが行われます。

新年

1月1日 歳旦祭

新しく年を迎える日。神様に感謝し、繁栄と豊作を祈願します。

1月14日 左義長

一年間の無病息災や学業の向上を祈ります。

2月11日 建国記念の日奉祝祭

日本の建国を祝うお祭です。

3月21日 産業興隆祈年祭
海上安全・豊漁祈願祭
防火祈願祭

日々の生活の安泰を祈る祭。漁業にまつわる海上安全や豊漁、防火の祈願をします。

春 4月20日 魚取社春季祭

海上安全・大漁祈願のお祭です。

5月15日 春季例祭

春季祭として豊かな実りと幸せを祈り、各町が獅子舞を行います。それぞれの町で演舞の構成は異なり、個性豊かな舞を楽しめます。

夏 6月30日 夏越大祓式

日頃の生活から生まれた罪や穢れを払い落とし、無病息災を願う日。

8月2日

虫干祭・來名戸社祭・火ノ宮社祭

來名戸社と火ノ宮社の例祭です。霊松殿の宝物の虫干しを行います。

8月はじめの大安 闍取り式

10月1日の「神輿渡幸祭」における13基の曳山の巡行順を決めます。

8月28日 祖霊社祭

創建の御祖神・家持御の御霊をお祀りします。家持を顕彰する短歌・俳句を奉納します。

例大祭 9月30日 秋季例祭

魂迎式 山神入魂式

10月1日

神輿渡幸祭 曳山供奉

曳山の「王様」に神様をお迎えします。

10月2日 秋季例大祭

築山神事 大祭式 放生会式

10月3日 報賽祭

例大祭が無事終了したことを報告・感謝するお祭り。かつては奉納相撲が行われていました。

秋 10月20日 魚取社秋季祭

日頃の収穫に感謝し、さらなる大漁を祈ります。

11月23日 産業興隆新嘗祭
祈漁祭・大麻頒布始祭

一年の豊作に感謝し大漁を祈ります。また各家々の神棚に納めるお札に御霊を入魂します。

冬 12月31日 追儺大祓式・除夜祭

罪や穢れを払い落とす茅の輪くぐりを行います。行く年の無事に感謝し、来る年の安全を祈ります。

放生津八幡宮 奉仕会のみなさん

落ち葉掃き、雪吊り、修理...毎日やることある

来たら松の木、「ばやく」になっどる。この時期、毎日やわ

八幡宮見たら 知らんふりして行かれん

神さんのおかげで健康のため、体のためになっどる

やることいっぱいあって言い尽くされん



祭りも正月も、行事の日は大忙し!
まっつんと正月、家でしたことはない

日々のお世話から祭りの準備・片付けまで!

放生津八幡宮の日々の掃除や営繕から、年間大小50ほどもあるお祭りの準備・運営・片付けまで、ほぼ毎日のように有志でお世話をしている奉仕会のみなさん。八幡宮の氏子崇敬町は36自治会ありますが、各町内の宮総代経験者がほとんどです。大工仕事や雪吊りなど体力のいる仕事から、しめ縄やお札作り、築山神事の客人たちの選定・準備から飾りつけに至るまで大活躍です。大きなお祭りの日は朝早くから夜遅くまで大忙し。ほぼ毎日通ってきて、体も頭もたくさん使って八幡宮に奉仕していらっしゃいます。奉仕会に入っよかったことを何と、口々に「健康維持」だと元気に答えてくださったみなさん。信心深く奉仕の心の厚い方々でした。

日々のお世話 - 奉仕会ルーティン -

基本、毎日。最近では休み、「働き方改革」やね

- 4:00 (冬季のみ) 参道の雪かき、除雪の手配
- 5:00 境内の掃除 秋は落ち葉がいっぱい!
- ↓ 様々な祭りの準備、片付け 年間、大小50ほどの祭りがあ
- ↓ 境内・拝殿などの修理・営繕 気になるところは限りないそう
- ↓ 季節の準備、片付け 雪吊りなど。天候を見ながら
- ↓ しめ縄、築山神事の準備 何ヶ月も時間をかけて準備する
- 10:00 終了・一服 社務所でお茶を飲んで解散。

- お祭りの日は、一度家に戻り、午後に再び参集。
- 9月に入ると、秋の例大祭の準備追い込みのため、さらに作業時間を延長するそう。
- 秋の例大祭やお正月など、連日の番が必要な場合は、交代でずっと神社にいるそう。



1 毎朝の仕事後の一服タイム。2 大しめ縄以外にも、御神木や境内社、氏子の神棚などに飾るための小さなしめ縄も奉仕会で制作しています。3 道具などを保管する「霊松殿」は、昔の漁業協同組合の前身である団体が寄付したものだ。4 お邪魔したのは12月中旬。「そろそろ茅の輪を設置せんならん。青々とした竹にしたいから、ギリギリに飾る」とのこと。



ちょうりくじ MAP国て
長朔寺 立町 安土桃山時代
から続く禅宗のお寺。毎年3月23日、ここに祀られている秋葉三尺坊を秋葉社へとお移しし、鎮火祭が行われます。

あきばさんじやくぼうだいていげん
秋葉三尺坊大権現(秋葉様)
本山/秋葉神社(田秋葉寺/静岡県)

ご利益
火災防除 家内安全 厄除開運

Historia 歴史解説
秋葉様と高神様

「秋葉様(あきわはん)」だけでなく、松の木に住み、天狗の姿をしているといわれる「高神様」も、火除けの神様です。天狗は、風を操る神通力を持つとされ、人さらいや火事などを引き起こすと信じられ、古くから畏れられてきたのです。

家屋が密集するまちならではの民間信仰
あきわはん Akiwahan

古くから、海岸に沿って発達してきた放生津の町。内川や道沿いに家々の連なる密集地は、どこから出火するとすぐに被害が広がりました。浜風で大火になることも多く、火に対する畏れや信仰の厚い地域です。毎年春、長朔寺に祀られている秋葉様を、海の近くの秋葉社へとお移しする、神仏混交の「鎮火祭」が行われます。また、秋葉様とともに高神様の信仰も浸透しています。気比住吉神社では毎年春・秋2回、高神様が住むという2本の御神木(松)の前で「防除祭」が行われます。さらに、放生津八幡宮の御神木に住む高神様が、昭和61年(1986)春の選抜高校野球の応援に行き「新湊旋風」を起こしたという話もあります。

あきばしゃ MAP国ち
秋葉社 中町

ほうじょうづ はちまんぐう MAP国ほ
放生津八幡宮 東町

けひすみよしじんじや MAP国さ
気比住吉神社 奈具町



1 毎年3月23日、秋葉社で開催される秋葉大権現祭。2 長朔寺に掲げられた鎮火札。3 祭りの際、秋葉社では鎮火札が配られる。4 気比住吉神社の高神様祭(=防除祭)は年2回行われる。

※神仏分離=明治元年(1868)に発せられた神道の国教化政策。それまで神仏混交だった信仰の形態が、神道と仏教で分けられるようになりました。

Historia 歴史解説
道祖神とオコリハン

災いや疫病などから、まちを守ってくれる神様として、各地に点在する「道祖神」。この神様は、道案内の神「猿田彦」がその元となっています。江戸時代、放生津の子どもたちの間で広まった「オコリハン」=「來名戸神」も分かれ道や集落の入り口などに置かれ、災いや悪霊を跳ね返すと考えられてきました。交通や旅の道中を守る「道祖神」とは違って、病氣平癒に重きが置かれているのが、新湊ならではのスタイルです。

やちまたひこのかみ やちまたひめのかみ くなのかみ
八衢比古神・八衢比売神(來名戸神)
(民間伝承)

ご利益
厄除開運 交通安全 病氣平癒

新湊オリジナルご利益!

さるたひこ どうぞじん
猿田彦(道祖神)
(民間伝承)

ご利益
厄除開運 交通安全 安産子育て



私の持からできた神じや
伊那那岐尊(いざなぎのみこと)

天孫降臨(※)の際に神々の先導役を務めた**猿田彦**は身長7尺2寸1メートル、鼻の長さは1.3メートル。天狗の原型とされています。

けひすみよしじんじや MAP国さ
気比住吉神社 奈具町
神社の境内にある來名戸社。江戸時代に流行した神様で伝染病(オコリ、コレラ)を防ぎ、病氣平癒を祈願する。

悪いものを跳ね返して、まちや人を守る!
オコリハン Okorihan
もう来な!と病氣や災いを除きます



1 日吉社境内にある、オコリハン(來名戸社)。2 放生津八幡宮境内にある、來名戸社。3 庚申堂前にある道祖神(左の石碑)。岩崎石という古い砂岩が使われている。小杉への街道沿いで放生津の外れに位置する現地に安置された。

鎌倉時代(1200年代)にはすでに、船による交易が盛んだった放生津。様々なモノや人、文化などが海からやってきました。しかし、やって来るのはいいものばかりではありません。「オコリ」(=マラリアに似た熱病)や、江戸時代、1858年7月以降に放生津でも大流行した「コレラ」などの伝染病が外から入ってきて、人々を苦しめました。町を閉鎖し行き来を禁止した記録も残っています。江戸後期、子どもたちの遊びの中から生まれたのが、辻々に石仏や石を積み重ねて祀る「オコリハン」でした。当時は至る所にありましたが、現存するのは3カ所のみ。今でも風邪やインフルエンザなどが早く治るようにお参りする姿を見かけます。主要な街道沿いや町の入り口などに置かれた「道祖神」にも、共通する願いが込められています。

ほうじょうづ はちまんぐう MAP国ほ
放生津八幡宮 東町

ひよししゃ MAP国ぬ
日吉社 立町

※天孫降臨=天孫である瓊瓊杵尊(にぎのみこと)が天照大神の勅を受け、地上世界に降り立ったこと。

こうしんどう 庚申堂 MAP④と
江柱 江戸時代に流行した民間伝承。今でも定期的にお祭りが行われているところは少なくなっています。



こうしんさま しやうめんどう 庚申様(青面金剛)
(民間伝承)

ご利益 不老長寿 無病息災 厄除開運

開運 POINT
仲間たちと夜通し騒いで健康を願う
こうしん しん こう
庚申信仰 Koshin
みんなでワイワイ飲んで笑って 悪い虫を撃退!!

庚申とは、曆に用いられる考え方。古くは平安時代の貴族たちが「庚申御遊」という宴を、夜通し行っていました。民間に広まったのは江戸時代。60日に一度やってくる庚申の夜に、人間の体に住む三尸という虫が体から抜け出し、天帝に告げ口して寿命を縮めると信じられていました。庚申の夜に庚申様の前で宴会をして過ごす風習が広まりました。現在ではほとんど見られなくなった信仰ですが、江柱地区には現在でも立派な庚申堂があり、中には色鮮やかな庚申様が祀られています。美しい庚申様が拝めるのは、毎年8月下旬。自治会の夏祭りと同じ日にお祭りがあります。

三尸 上尸 中尸 下尸

上尸 人の頭の中(脳)にいて、首から上の病気を引き起こし宝貨を好ませる。
中尸 人の腹の中において、臓器の病気を引き起こし、大食を好ませる。
下尸 人の足の中において、腰から下の病気を引き起こし、淫欲を好ませる。



1 江柱地区の庚申堂。地元の中新漢商店街婦人部がお世話をしている。2 浜街道沿い、三十三観音のそばにある「庚申塚」。江柱の庚申様は、元はこの場所にあった。

観音様と地藏様

観音様とお地藏様は、どちらも「菩薩」です。菩薩は、人々を救いながら修行している仏で、仏教の開祖・お釈迦様が、王子で修行中だった頃の姿がモデルとなっています。観音菩薩は、救う相手によって様々な姿形に変身します。人々を常に観ており、救いの声(音)があれば瞬時に救済するといわれています。地藏菩薩は僧侶の姿。命あるもの全てを救済するといわれます。

お釈迦様の生涯 (王子時代の姿がモデル)

0-28歳	王子として何不自由なく暮らす。生老病死の問題を深く思い悩む
29歳	修行を決意。家族を捨て、旅立つ。以後、様々な苦行に励む
35歳	悟りの境地に達し「ブッダ」となる
~80歳	各地へ教えを説いてまわる



かんのおんさま かんのおんげさつ
観音様(観音菩薩)
(民間伝承)

ご利益 厄除開運 諸願成就 極楽往生

さんじゅうさん かんのおん MAP④め
三十三観音 荒屋~練合
浜街道沿い約5kmの間で見られる。道路拡幅や区画整理にともない、点在していた数体をまとめて安置するケースが増えた。

あらゆる悩みから救ってもらえる!
さんじゅうさん かんのおん
三十三観音 Thirty three images of "Kannon"
ぜんぶ拜めば ぜんぶ願いも叶う! ...かも。

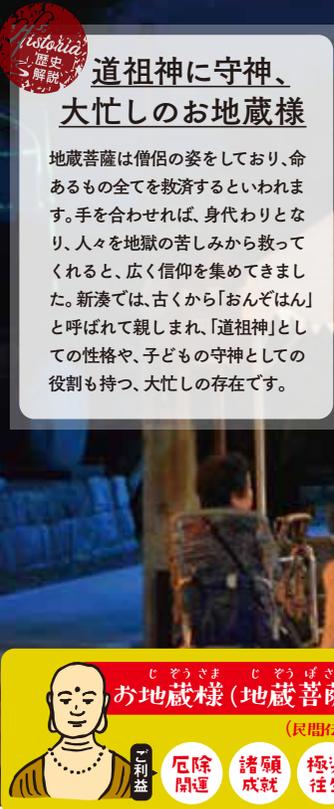
世の中のありとあらゆる人を救うため、老人や老女、子ども、兵士、僧侶、鬼、天女など様々な姿に変身するという観音様。その姿が33種類あることにちなんで、33箇所のお霊場を巡礼参拝する信仰が生まれました。この世の“あらゆる苦しみから救ってくれる”観音様をお願いすれば、“あらゆる願いが叶う”と解釈され、「現世利益*」を求める大衆の間で盛んになりました。放生津でも、室町・戦国時代には民間信仰として広がっていたようです。越の淵に向かう海沿いの道(浜街道)には、今でも、33体の観音様が点在しています。昔は1体ずつ等間隔に安置されていましたが、現在は何体かをまとめて安置する例が増えました。また、古新町の観音堂には、33体が一堂に安置されています。どちらの三十三観音の構成も、千手観音や十一面観音など人気のある観音様が数体ずついらっしゃり、33種のお姿は揃っていません。

*現世利益=信仰した結果、この世で希望や欲望が叶うこと。本来、迷いや苦しみがなくすることで平穏無事に過ごせるのが現世利益でしたが、徐々に具体的・欲求的になってきました。



1 古新町の観音堂には三十三観音が安置されている。2 浜街道沿いの三十三観音。これは千手観音。

かんのおんどう MAP④け
観音堂 古新町



道祖神に守神、大忙しのお地藏様

地藏菩薩は僧侶の姿をしており、命あるもの全てを救済するといわれます。手を合わせれば、身代わりとなり、人々を地獄の苦しみから救ってくれと、広く信仰を集めてきました。新湊では、古くから「おんぞはん」と呼ばれて親しまれ、「道祖神」としての性格や、子どもの守神としての役割も持つ、大忙しの存在です。

お地藏様 (地藏菩薩)
(民間伝承)

九利益

- 厄除 開運
- 諸願 成就
- 極楽 往生



人々に寄り添うお地藏様がいっぱい！

おんぞはん Jizo Bosatsu (Ksitigarbha)

悩み、苦しみを 取り除いてくれる 近所仏！

古くから海で生計を立てる人々が多かったこの地域には、地藏堂が約150もあります。「おんぞはん」(お地藏様)は、見えないものへの畏敬や感謝の念を持って暮らす人々に、常に寄り添ってきました。普段はひっそりとして、女性や高齢者が手を合わせる姿を時々目にする程度のお地藏堂ですが、毎年夏のお祭り「地藏盆」には、少し華やぎます。その昔、町部の地藏盆は子どもが中心となって準備するのがならわしでした。数人一组でお堂を磨き、町内の家々を回ってお供えや寄付を呼びかける姿は、賑やかな夏の風物詩でした。大人中心のお祭りとなった今も、湊町の夏の夜を静やかに彩っています。

お地藏様のご利益 ※善男善女のための二十八種利益(地藏菩薩本願経より)

天龍護念	善果日増	集聖上因	菩提不退	衣食豊足	疫病不臨	離水火災
無盜賊厄	人見欽敬	神鬼助持	女転男身	為王臣女	端正相好	多生天上
或為帝王	宿智命通	有求皆從	眷属歡樂	諸横消滅	業道永除	去処盡通
夜夢安楽	先亡離苦	宿福受生	諸聖讚歎	聰明利根	饒慈愍心	畢竟成佛



こうみょうじ MAP ㉑
光明寺 東町 光明寺前地藏堂の地藏盆。8月下旬頃、地藏堂にお供えをし、僧侶の読経や参詣者によるご詠歌の合唱が行われる。



1 光明寺前地藏堂。数体合祀されているので、普段から賑やか。2 寒い時期には毛糸のケープが巻いてあることも。



1 **奈呉町地藏尊** MAP ㉒

道路拡幅や区画整理などで、移動を余儀なくされる地藏堂は少なくありません。移動後は、別の場所に新たに建てられたお堂に安置されるか、別のお堂に合祀されるなど、引き続き大切に祀られる例がほとんどですが、少子高齢化が進み、管理する人がいないなどの理由で、なくなってしまう地藏堂もあります。昨今、増えている空き家問題と同じように、管理の難しい地藏堂も増えているのです。そこで奈呉町では、辻々のお地藏様を一所に集めて祀る地藏堂を、2017年9月に新設しました。町内11カ所に散らばっていた「おんぞはん」26体が、新しいお堂に集められたことで管理が一元化されました。奈呉町は漁師さんたちが多く住んでいた地域。海に出た家族の無事と健康をひたすら願う人々の思いを、辻々で受け止め続けてきたお地藏様たちが、和やかに会する新たなパワースポットです。



2 **町のおんぞはんが1カ所に大集結!** 仲良くしようね

1 2017年9月に完成した奈呉町地藏尊は、町内の辻々にあったお地藏様たち26体を合祀している。2 3 奈呉町地藏尊の竣工式にて、光明寺ご住職の読経の後、法幢庵の庵主さんのご詠歌に合わせ、地元の女性たちが声を揃えて合唱します。



Wow! **中町の地藏堂** Yeah! **観音様&お地藏様 一緒にお祀り!**

秋葉社の並びにある地藏堂。観音扉の中は、金ピカ&カラフル! お水や「おぼくさん」(仏様にお供えするご飯)は、地域の人々が交代でお世話しています。

船乗り・四郎右工門が、航海の途中で出会い、荒波を鎮めたという言い伝えが残っている十一面観音。両脇にはお地藏様が祀られています。

観音様もお地藏様も「おんぞはん」と呼ぶ

この辺りでは、お堂に祀られているお地藏様や観音様が、ほとんど区別されずに「おんぞはん」と呼ばれています。観音様とお地藏様が合祀されているお堂も少なくありませんし、お堂そのものをおんぞはんと呼ぶこともあります。そして、例外なく立派な外観のお堂の中には、きらびやかな飾り付けやお供えが。石のお地藏様はほぼ全て、お手製のカラフルな袈裟と帽子をまっとうっており、いかに大切にされているかが分かります。



Fisherman's festival at the beginning of work

起舟祭 Kisyu-sai

2月11日の起舟祭は船霊様のお祭りの日であり、漁業・海運に関わる人々の仕事始めの日。航海安全や商売繁盛を祈って、各家で祈祷や祝宴が行われます。かつては船員が雇用契約を結ぶ日でもあり、網元や船主の家では、賑やかな祝宴が行われ、見物人も大勢いました。現在は簡素化が進み、関係者以外には意識されなくなりつつあります。起舟祭の日、各家では船霊様や恵比寿様、大黒様の掛け軸を掛け、大漁旗やお供えを飾ります。内川や漁港に停泊する漁船にも大漁旗がはためきます。



ふなだまさま 船霊様 (ふなだはん) (民間信仰)

海上安全 航海安全 大漁祈願

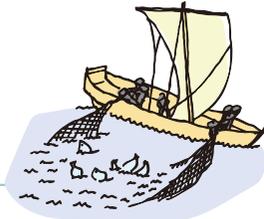


1 毎年、漁期の前後に、善寶寺(山形県鶴岡市)に参拝する漁師さんは多い。新しいお札をもらうと、古いお札をお神酒とともに海に納める。(提供:野口和宏) 2 起舟祭で船霊を祀るのに使った、藁製の船形飾り。(提供:射水市教育委員会) 3 北前船・長船丸をモデルに作られた7分の1の模型。これも船霊を祀るために使われた。(提供:射水市教育委員会)

漁師の信仰・祭り

Fisherman's Religious Faith and Festival

昔から、海で生計を立てる人が多く住む放生津地域。「板子一枚下は地獄」ということわざがあるように、海での仕事は死と背中合わせでもありました。中でも漁師さんたちは、海上での無事と大漁を願って、様々な力を信じ、崇敬してきました。どんな舟にも必ず、船を守護する女神・船霊様が祀られています。船内の神棚に安置したり、船体そのものに封入する場合があります。起舟祭の日には、船主の家に船霊様をお迎えするため、船の形をした模型や船を描いた掛け軸などを飾ります。漁師を庇護する恵比須様を祀る西宮神社は、漁法を問わず地元の漁師さんからの絶大な崇敬を集め、日々の暮らしや習慣にも深く根ざしています。また、各家で拝まれた種々の神仏や、各町で続いていた季節の祭礼を人一倍大切にしている人が多く、漁師さんの信心深さは、他のどの業種の人々にも負けません。



4 起舟祭の日、新湊漁業協同組合では、西宮神社の宮司による祈祷が行われます。(提供:射水市教育委員会) 5 内川沿いの漁船にも大漁旗がはためきます。(提供:射水市教育委員会) 6 漁師さんの家では、船霊様や恵比寿様、大黒様の掛け軸を掛け、大漁旗やお供えを飾ります。恵比寿様には黒豆入りの鏡餅や香箱ガニなどをお供えするそうです。 7 この日は、漁業関係者の各家に宮司が訪れ、家祈祷も行われます。

竜宮竜道大竜王、戒道大竜女

本社/善寶寺(山形県)

利益 航海安全 大漁祈願 心願成就

善寶寺 海の守護神、龍神様を祀る

山形県 鶴岡市

海の守護神・龍神の寺として、全国の漁業関係者から厚い信仰を集めています。新湊の漁師さんの多くが、毎年の漁期前後に参拝し、お札をいただいでくるそう。様々なお札があるそうですが、中でも「荒汐退散」の祈折札は、通常は船に祀っておき、時化やトラブルが発生した時などに海に納めて安全を祈る「切り札」としても使われるそうです。

オールマイティーな切り札!



古い写真でみる漁師さん



南嶋家の起舟祭。船霊様の掛け軸を背に、正装した船主や紋付袴の人々、着物の家族たちが集まっています。各人に用意された御膳や手土産も豪華です。(大正～昭和初期頃/提供:射水市教育委員会)



昔は、大きな桶弁当にご飯を詰めて海に出ました。緊急時にはバケツや浮きの代わりとして命を救う道具になりました。(昭和後期頃/提供:射水市教育委員会)



同じ漁法の仲間て神様を受け渡し
Hand over share God for each fishing union

またて
潤建のえびす様渡し
またて
Matate no Ebisu-sama watashi



11月第3土曜日に、5つの潤建の間で行われる神事。漁業の神・恵比須様の絵像*、黄金のアビの大盃、新湊沖の漁場を示した漁業絵図を「潤建のえびす様」と呼んで、1年交代で順番にまわっています。当日は、その年の担当「当家」で神事と祝宴が行われ、続いて翌年預かる潤建の人々が正装で祝宴に加わり、やがて、提灯を持ち行列を組んで、次の「当家」まで届けられます。送り出す側・迎える側の「当家」では、それぞれの玄関先で藁を焚き、金箔のアビの大盃でお神酒を回し飲み、「めでた」を歌って、賑やかな夜を過ごします。

*恵比須様の絵像は、戦国大名・佐々成政の孫である、狩野常信の筆です。



1 恵比須絵像(画幅)の入った木箱は背負う。黄金の大盃と漁業絵図(掛け軸)もそれぞれ大切に持ち、列をなして運ぶ。提灯には恵比須様の御紋(菱柏)が見える。(提供:射水市教育委員会) 2 当屋では、黄金の大盃でお神酒を回し飲み。(提供:射水市教育委員会)



**恵比須
絵像**

元禄15年(1702)、放生津の漁師たちが加賀藩主に金鯛を献上。喜んだ藩主が、これまでの彼らの漁の実績を賞賛し、4つの潤建に漁業の特権・免許を授けました。このお墨付きと同時に、恵比須絵像が与えられた、と言ひ伝えられています。

またて潤建 漁師たちの漁法ごとの同業組合
西宮神社には現在、定置網、底引き網、カニ籠、小型いか釣り、雑網(はえ縄・刺し網・一本釣り)の、5つのグループがあるそう。

ことしめしのかみ えびすさま
事代主神(恵比須様)
本社/美保神宮(島根県) 漁師・新湊
漁師ならではの!

ご利益
高売
大漁
漁師守護

漁師の生活に深く根ざす信仰の拠り処

にしみや じんじゃ
西宮神社 Nishimiya Jinjya Shrine MAP 長徳寺

越中国司・大伴家持が、749年に、漁業の繁栄と地域の安泰を願い、雲州美保神社を分霊・勧請して創建された奈呉浦西宮神社。漁師を守護する恵比須様を祀っており、地元の漁師さんたちが厚く信仰しています。西宮神社では、「潤建のえびす様渡し」や「新湊のボンボコ祭」といった珍しい神事が営まれているほか、毎月20日にはえびす講も行われています。海上はもちろんのこと、陸上においても漁師さんたちの暮らしに深く根ざす、信仰・風習の拠り処となっています。



海上安全と豊漁を祈る特別なお祭り
Special festival of prayer for safety and big catch

しん みなと
新湊のボンボコ祭
まつり

Bonboko Festival in Shimminato

不漁や海難事故が発生した翌年の4月19日にだけ行われる、西宮神社の特別な祭礼。神事は、社殿、海上、氏子の3部構成。社殿神事は、神前で舞人によるボンボコ舞が奉納され、参拝の漁師に御幣が配られます。海上神事は、ご神体の恵比須像を御舟代に移し、これを神輿船に乗せ沖へ出て、海中に祈禱札や供物を沈めて海上を清め、ボンボコ舞を奉納し、海上安全と豊漁を祈ります。海上から帰還した舞人は、漁民義人塚で舞を奉納した後、氏子を巡ります(氏子神事)。氏子の家々では、お囃子に合わせて踊る舞人に恵比須様を重ね、家の中に追い入れる動作で幸福の到来を祈ります。

ボンボコ舞の由来

お囃子の太鼓が「ボンボコ、ボンボコ」と、響くから

1580年、地元の武将・神保氏張が、現在の地に西宮神社の社殿を再建。同年より「恵比須舞(俗称:ボンボコ舞)」が行われるようになった。海上安穏と大漁を祈願し、400年以上に渡って営まれてきた。



1 海上神事は「大道式」とも言う(方言で、大道は海上の意)。御舟代に移したご神体を神輿船に乗せて海上を渡御する儀式。大漁旗で飾った20隻近くの漁船とともに、海上3カ所(東→西→中央)の漁場に向かう。(提供:射水市教育委員会) 2 3カ所に祈禱札を沈めた後、中央の漁場を塩で清め、お神酒を飲み、海川山野の供物を海に捧げ、ボンボコ舞(恵比須舞)を舞って、海上安穏と大漁を祈願する。(提供:射水市教育委員会) 3 社殿神事の際は海上神事へ。ご神体に乗せた御舟代が神社を出発!(提供:射水市教育委員会) 4 海上神事の際は氏子神事へ。氏子の家々を巡る前に漁民義人塚へも舞を奉納。(提供:射水市教育委員会)

恵比須様は、漁業の神であり、七福神の中の一神。日本を創造した伊弉那岐尊と伊弉諾命の第一子として生まれまされたが骨のない美命の第一子として生まれまされたことから海へ流された。この海へ流されたことからは、蛭子が神として祀られるようになりました。

我が子よ!

伊弉那岐尊: いざなぎのみこと
伊弉諾命: いざなみのみこと



西宮神社の鳥居は、漁に出る際、船の上からお参りできるよう、内川と海側に向けられています。



ぎょみんぎじんづか MAP 長徳寺
漁民義人塚

江戸時代、命と引き換えに放生津の漁民らの窮状を救った佐賀野屋久右衛門と四歩市屋四郎兵衛の2人が祀られています。悪徳商人が漁民を支配し、欲しいままに利権をむさぼっていることを加賀藩の奉行に直訴。2人は斬首されましたが、これを契機に、現在の魚市場に相当する放生津魚場が開設されました。



2人の位牌はこちらに!
長朔寺
▶10ページ参照

御食津大神・足仲彦命
 本社／氣比神宮(福井県)
 五穀豊稔 高売繁盛 金運上昇

底筒男命・中筒男命・表筒男命
 本社／氣比神宮(福井県)
 海上安全 海運守護 漁業守護

伊邪那岐尊(いざなぎのみこと)
 私が腹をするた
 水中から生まれた
 神々



天照大神
 本社／伊勢神宮内宮(三重県)
 最高神 所願成就 国家安寧 子孫繁栄

豊受大神
 本社／伊勢神宮外宮(三重県)
 五穀豊稔 高売繁盛 厄除開運
 別名は御食津神ともいわれる

氣比住吉神社

MAP国さ 奈呉町 海に因む神様を多く祀る、漁師町らしい神社

北陸道の総鎮守で日本海の海上交通の神様である「氣比神(＝御食津神・足仲彦命)」と、海と航海の神様「住吉三神(＝底筒男命・中筒男命・表筒男命)」が一緒に祀られています。住吉三神は、1667年に奈呉の浦(＝新湊沖)の海中から出現したと言われています。【曳山】古新町、奈呉町

神明社

MAP国の 東町 最高神・天照大神と食をつかさどる豊受大神が祀られる、伊勢信仰の神社

創建962年の歴史ある神社。昔はこの一帯が、「神明町」と呼ばれていました。境内には、他にも多くの神様が祀られています。【曳山】東町

名前を交換した神々の話

仲哀天皇(足仲彦命)の御代、大臣・武内宿禰は、三韓征伐の後、皇太子である菅田別命を連れ、腹をするために角鹿(今の福井県敦賀市)へ入り、御殿を建てて滞在しました。この時、角鹿の土地の神である伊奢沙別命が、皇太子の夢に現れ、「私の名を皇太子の御名に変えたい」とお告げを出しました。それに対し菅田別命は、「まことに恐れ多いことであり、仰せの通りにします」と申し上げると、伊奢沙別命は「明朝、浜に行きなさい。名を交換した証として、贈り物を差し上げましょう」とおっしゃられました。夢から覚めた菅田別命が海

足仲彦命 菅田別命 御食津大神

辺へ出かけると、鼻に傷が付いたイルカが海岸一帯に打ち上げられていました。大量のイルカをご覧になった菅田別命は、「伊奢沙別命は私に御食の魚をお与え下さった」とおっしゃいました。この逸話から、伊奢沙別命の名を称えて御食津大神と呼ばれるようになりました。今では氣比大神とされています。また、イルカの血が臭かった海岸を血浦と呼び、後に都奴賀(敦賀)の地名の由来となりました。

建御名方神(諏訪大明神)
 本社／諏訪大社(長野県)
 武運長久 高売繁盛 子孫繁栄

建御名方神は、大國主命の息子で、武神、建御雷神に力くらべを挑んで負けてしまい、諏訪湖に逃れ国を築きました。



祭神は1705年に勧請。建御名方神と、八坂刀売命が祀られています。【曳山】新町

新町諏訪社

四日曾根諏訪社
 四日曾根

1333年、放生津城落城の時、住民らが避難したのはここだから。



白山比咩大神(菊理媛命)
 本社／白山比咩神社(石川県)
 縁結び 復縁和合 交通安全

白山社の境内にあり、社殿向かって右が白山宮の菊理媛命、左に神明社の天照大神を祀っています。

菊理媛命は日本を創造した夫婦神を伊邪那岐尊と伊邪那美命の仲達した女神です。

伊邪那岐尊：いざなぎのみこと
 伊邪那美命：いざなみのみこと

迦具土命
 本社／靈宮神社(京都府)
 火災防除 土地守護 鉱業守護



愛宕社 法土寺

弘化2年(1845)、この場所から失火があり、法土寺・荒屋・東町など490戸が焼失する大火がおきました。放生津八幡宮も焼燬するなど大きな被害が出たことから、急ぎよ山城国の火伏せ神とされる「愛宕神(＝迦具土命)」を勧請し、出火場所に社殿を建て、防火を祈願したのが始まりです。

秋葉社 東町



社の周辺は、その昔、新規町と呼ばれました。2度の大火をきっかけに慶応2年(1866)創建。

菅原道真(天神様)
 学業成就 合格祈願 五穀豊稔

曼陀羅寺の境内にある天満宮。加賀藩主・前田利長公の重病を、祈禱快癒させたことを讃え、寄進された天満宮。浄土宗のお寺の中に神社がある、珍しいスポットです。



天満宮 東町

前田利長公が曼陀羅寺に与えた天神様像を初めて祀った場所です。



住吉造の本殿の前にはなで牛が!

天満宮 六波寺



藤ノ宮神明社 長徳寺

藤の木が植えられたので、こう呼ばれるようになりました。1342年、後醍醐天皇の子である宗良親王が舟に乗って上陸したと言われる場所の跡にある神社です。【曳山】長徳寺

神明社 新町

西新町商店街に面した神社。創立年は不詳。

皇大神宮 中町

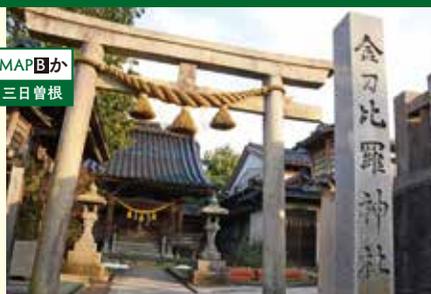
もとは山王町にあり、明治初めに現在の場所に移転。



おおもものめしのかみ こんびらさま
大物主神(金比羅様)
 本社/金刀比羅宮(香川県)
 利益: 航海安全 海難救済 高売繁盛

こんびらじんじや MAP④か
金刀比羅神社
 三日曾根

海上安全の守護神である「金比羅神(=大物主神)」を祀った神社。昔はここから奈呉の浦が見えたことでしょう。



仏教の神・クンビロー(ガンジス川の女神の乗り物であるワニを神格化)が、日本では龍神として信仰されるようになり、雨や道難から守ってくれる**金比羅様**となりました。



通称は、天狗の宮

はまなかこんびらぐう MAP④む
浜中金刀比羅宮
 荒屋町

天狗は金比羅様の使者とされています。江戸時代には天狗の面を背負った白装束の人々が、各地に金比羅信仰を広めたそうです。

神仏習合が色濃く残り、漁師や船方の崇敬を集める
 こうみょうじ MAP④ひ
光明寺
 東町

江戸時代に現在地に移転したという高野山真言宗のお寺。地元の漁師や船方からの厚い信仰を集めています。明治以前の神仏習合が色濃く残り、地域の「おんぞはん」信仰の中心を担うお寺でもあります。



ひえじんじや MAP④い
日枝神社
 六渡寺
 神社だけども様も祀られている

平安時代、すでに神主がいたという文献の残る古い神社。春と秋のお祭りでは、県内随一といわれる獅子舞が盛大に行われます。



ひよしじや MAP④め
日吉社
 立町
 以前、「山王町」の中心だった神社

天台宗の地方布教とともに創建。現在の場所には300年前に移転しました。氏子町の多い神社です。【曳山】立町、紺屋町、法土寺、南立町、四十物町、中町(東側)

おおもくのみこと
大山咋命
 本社/日吉大社 東本宮(滋賀県)
 利益: 家内安全 安産祈願 縁結び

大山咋命は、山の神。山王とも呼ばれ、山や大地を支配し、農耕治水などを司ります。この水の神を祀ります。この神の使者は猿、鹿が去る、勝るなど、縁起担ぎ役なので至る所で見る事ができます。

だいこくさま
大黒様
 利益: 富貴達 高売繁盛 縁結び

大黒様は日本の大黒主命とインドのシヴァ神が合わさった神様。シヴァ神は、暗黒を支配する戦闘の神ですが、仏教に取り入れられ、福徳の神様となりました。

7つの社寺が大黒様を祀っています

ぎじょうきょうかい MAP④み
義常教会
 東町

じざういん MAP④ま
地藏院
 東町

だいらくじ MAP④な
大楽寺
 紺屋町

だいぶつじ MAP④す
大仏寺
 新町

にしみやじんじや MAP④く
西宮神社
 長徳寺

こんびらじんじや MAP④か
金刀比羅神社
 三日曾根

はまなかこんびらぐう MAP④む
浜中金刀比羅宮
 荒屋町



見つけてラッキー! 縁起物を探そう!

寺社ばかりではありません。実は、まちの至る所に縁起物があるんです! 何気なく通り過ぎてしまうこともあるけれど、もし見つけたらラッキー! 普段の生活にもたくさん潜んでいる、まちの中の縁起物を、あなたも見つけてみてくださいね!

A

B

C

D

ご利益
いっぱい!

開運さんぽMAP



Historia SPOT-2 万葉集ゆかりの名勝地・奈呉の浦
富山湾



放生津八幡宮の裏手に「奈呉の浦」という石碑があります。60年ほど前まではこの前にすぐ海が広がっていました。大伴家持が好んで訪れ歌に詠み、全国に知られる名勝地となりました。今でも「奈呉」という名前が使われている場所やものは少なくありません。

Historia SPOT-3 代表的観光スポットに歴史あり
海王丸パーク



商船学校の練習船だった帆船・海王丸。1930年～1983年の間に、地球約50周分の航海をし、約1万2,000名の若き船員を育てた船です。大阪市との誘致合戦の末、5年ごとに両都市で交互に係留することとなり、1990年、この地で初めて一般公開されました。その後、周辺に公園を整備した新湊のほうに永久係留が決まり、大阪市内に展示することなく今に至っています。

Historia SPOT-1 京都と東北を結ぶ浜街道の要所
三ヶ新の道標



「越後出羽道」と書かれた道標は、安政6年(1859)に立てられたもの。ここは京都方面と東北方面の重要な三叉路でした。方向を指差す手に、当時流行の元禄袖があしらわれたおしゃれさと、『←京都、現在地、新潟・東北→』という現代ではあり得ないざっくり、ダイナミックな位置表示にご注目。

！歴史ヒストリアチーム、とっておき！
もっとご利益を感じる方法



1 **合祀や習合で
ご加護が増大!!**

広く親しまれている神様の多くは長い年月を経て、様々な宗教や信仰、言い伝えなどの影響を受けてきました。違う神仏どうしが何かのタイミングで合体したり同一視されたりすることも多く、一つの社寺に複数の神仏を祀る「合祀」によって、民衆の幅広い願いを受け止める包容力は増し続けます。神仏の成り立ちや歴史を知れば、さらにご加護が増すことでしょう！

2 **連想するほど
ご利益うなぎ昇り!**

例えば、頭脳明晰で文才に優れた菅原道真公は学業の神様として有名ですが、その優秀さが嫉妬を買って左遷。無念の生涯を閉じて荒ぶる神「天祖」となり、都に多くの災い・飢饉をもたらしたため、雷や雨をつかさどる雷神、農耕の神ともされています。さらに14人の子どもに恵まれたことから**安産・子宝の神**ともされています。神仏の周辺の言い伝えを紐解けば、思わぬご利益を発見できるかも!?

3 **拝みほど
神イパワーUP!!**

鎌倉幕府の基本法典「御成敗式目」(1232年)の第1条に、「神は人の敬いによりて威を増し、人は神の徳によりて運を添う」と記されています。人々の崇敬を受ければ受けるほど、神仏の力は高まるのです。長い間、多くの人々に拝まれ続けてきた仏像やご神体はパワー絶大! 私たちが手を合わせることで神仏の力が高まり、その力によって私たちに幸運がもたらされる…。なんと素晴らしい循環なのでしょう!

！さらに深く楽しむために…
お世話をしている方々にお声がけを

神社の境内の掃除や「おんぞはん」のお世話などは、地元の方々がボランティアでやっていることがほとんど。お世話をしている方を見つけたあなたには、お参りする前からすでに幸運が到来しています! 「ご苦労様です!」と声をかけてみましょう。さらに運がよければ、境内やお堂の中を案内してもらったり、超ローカルな話もきけたりするかもしれません。都合が悪ければまた今度。何にせよ、声をかけてみれば、新しい世界が広がりますよ。



！新湊歴史ヒストリアチーム
リーダーの一枚&一言

しんみなと歴史ヒストリア
 プロジェクトリーダー 吉久 磨



「感謝の念」特別賞
 2017年 射水の自慢フォトコンテスト

新湊の曳山といえば、13基の曳山が勢ぞろいし「ア、イヤサー! イヤサー!」と威勢のいい掛け声をかけながら角を豪快に曲がるのが見どころですが、今回は隠れた見どころをご紹介します。この写真は、巡行を終えた曳山が、放生津八幡宮前でお神楽を演奏し、無事巡行を終えた報告と神様や関わった人々に感謝している姿を撮影しました。巡行路にある神社の前でも13基の曳山全てがそこに止まり、お神楽を鳴らし、頭を下げて感謝を伝える姿を見ることができました。豪快に角を曲がる部分が「動」なら、神社の前で感謝している姿が「静」。この二つが新湊の曳山の魅力を高めています。ぜひ、「静」の部分も10月1日にチェックしてみてくださいね。

笑う獅子 我慢の狛犬

放生津八幡宮拝殿に、高さ約180cmの木造獅子・狛犬一対が置かれています。よく見ると、胸のあたりが黒光りしています。お参りに来た人が、帰りにナデナデしていくそうです。口を開けた獅子は「アハハ、くすぐったいなあ」と大笑い、口を閉じた狛犬は「ウー、がまん、がまん」と歯を食いしばっているのかもしれないね。

協力
松山 充宏



射水市 **新湊博物館** 登録目録
 火曜・祝日の翌日
 所在地 射水市鏡宮299 TEL 0766-83-0800
 開館時間 9:00~17:00 (入館~16:30)

あゆの風いたく吹くし奈呉の海人の釣する小舟漕ぎ隠れ見ゆ万葉の頃より新湊地域は海とのつながりが強く、海から神様を迎える築山神社のような海にまつわる神事が今なお残っています。大海原に船を漕ぎ出す。それは常に自然と向き合いながら、船に乗る人も陸で待つ人も航海の安全を何度まで祈願する、祈りの歴史がそこにあると想像できます。まちを見渡せば、多彩な神様や仏様・お地藏さんが数多く残り、信仰の深さを垣間見る事が出来ます。ふらっとこのまちを訪れ見知らぬ神社で拍手を打つ、仏様や地藏さんに手を合わせる、その一瞬心穏やかに自分を見つめ直す事により運が開けてくるかも。何しろこのまちは、古くから祈り多きまちですから。

新湊には多くの寺社仏閣があり、各々の場所には神様、仏様が祀られています。古くから漁師町であった新湊だからこそその信仰心は今なお受け継がれています。普段は何気なく参拝、お参りしている寺社仏閣かもしれませんが、視点を変えて訪ねてみると「開運」が訪れるかもしれません。一日限りの神事もあり、ご紹介したのすべてに出会うことができないかもしれませんが、ぜひ開運を探しにきてご利益を受け取ってみたいかがでしようか。

事務局 **買場 啓太**



私が幼い時に港町の祖父母が行っていた祭礼の準備。何気なく「なんしとんがけ?」と聞いたら、少し微笑みながら「神様をお迎えする準備だよ」と。今振り返ると家族が健康に暮らしているよう祈りながら準備していたのではないかと思います。新湊という限られた地域に、神社やお寺がいくつもあり、それぞれ神様・仏様が違います。人々の様々な信仰と想いにより多くの神仏や靈に愛され新湊は豊かな土地になったのだと感じました。

事務局 **竹内 健**



あとがき 見えない「気」が確実にある

圧倒的な力を持つ不可視の存在を、畏れ敬って生きてきた人々。祀る・祭るという行為を通じて脈々と引き継がれてきた意識の積み重ねが、清々しく奔放で力強い新湊の「気」を作ってきたのだと思います。神仏と人々の協同作業が生み出す空気、気質、意気…そして運氣も。目に見えなくても、確かに感じますよね? 📷 撮影・デザイン・編集: 明石あおい